

厚生文化部・菜の花会主催

南島原世界遺産探訪 バスツアー

キリシタン文化の
繁栄と弾圧の歴史を学ぶ

家族向けニュース（ご家族の方にお渡しください） 菜の花通信

Vol. 50

■発行■
長崎県保険医協会
菜の花会



原城から談合島(湯島)を臨む
左からフェラーロ神父、天草四郎、四郎の母像

5月19日に長崎純心大学学長の片岡瑠美子先生を講師に迎え、第63回菜の花会「片岡瑠美子先生と訪ねる世界遺産の旅・南島原バスツアー」を開催し、会員・家族など30人が参加しました。



▲講師の片岡瑠美子先生

まず一行は、「有馬キリシタン遺産記念館」でキリスト教の伝来によつ

た。南島原市に着くまでの車中で片岡先生から中世九州でキリスト教が広まった歴史や、今回訪れる2018年世界遺産に登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産の選定にまつわる経緯などについて解説がありました。

でもたらされた繁栄と激しい弾圧の歴史についてボランティアアスタツフによる解説を受けました。昼食は原城温泉真砂で新鮮な海の幸と郷土料理を堪能しました。

午後からは世界文化遺産であり、「島原・天草



▲有馬キリシタン遺産記念館のガイドから布教の鍵となった活版印刷機の解説を受ける参加者



▲島原教会前で集合写真



▶ 原城跡を散策



▶ 日野江城跡

「一揆」の舞台となった「原城跡」を見学しました。1637年に勃発したこの一揆では籠城した3万7000人（諸説あり）に及ぶ全領民が死亡、幕府軍も1万人の死傷者が出たといわれています。地元観光協会ガイドから天然の要塞であった原城の地形と落城するまでの経緯を教えてもらった参加者は、あまりにのどかな眼下の風景とのギャップを感じながら当時をしのびました。

次に訪れた「日野江城跡」で片岡先生は「キリシタン大名有馬晴信の居城であったこの城を中心にキリシタン文化が花開いた。世界遺産に登録されなかったのは、潜伏時代」とは関連が薄いなどの要因はありますが、とても重要な史跡」と説明されました。ですが、長い階段を昇り城跡に辿り着いたものの石垣を認めるだけで一面草野原でした。「こうした整備の遅れが構成遺産の選外となった一因かもしれない。いかに地域の意識が

こうしたことに影響するかが窺えます」とも補足されました。

最後にカトリック島原教会に立ち寄り、聖堂内の島原のキリシタンの歴史を描いたステンドグラスを片岡先生の解説のもと見学しました。先生は、「島原・天草一揆は宗教戦争だと言われることがあるが、領主の過剰な徴税で極限まで追い詰

感想 〈抜粋〉

- 天候に恵まれ（降らず照らず）計画通りの行程で無事帰着し、祝着至極です。片岡先生のガイドも要点をとらえて知りたい知識をきちんと捕らえてお話し下さり感謝でした。
- ツアーに参加しなかったら知る事なかった歴史を学びました。
- 毎年このツアーを楽しみにしています。いつも参加して良かったという思いで帰ってきます。
- 片岡先生の説明で島原の乱のことがよくわかりました。
- 殉教の歴史は知るほどに人の残酷さを知らされますがその中で生き続ける強さ育つ文化も大きいです。
- 片岡先生のお話しがとてもくわしく、ていねいでしかもおもしろく、良かったです。ありがとうございました。昼食もおいしかったです。

められた領民が「どうせ死ぬなら」の思いでおこした一揆です。徳川幕府は、藩政の失敗より「キリシタンの反乱」として方が体面を守れると判断し、この大事件の責任をキリシタンにあるとしたのです」と話されました。

一行は南島原の歴史の奥深さをあらためて感じながら帰路につきました。



▲講師の本馬貞夫先生

当初は「長崎の教会群



冒頭、本馬先生はまず「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録されるまでの経緯について紹介しました。

とキリスト教関連遺産」として登録を目指していたものの、世界遺産の諮問機関（ICOMOS）から「250年の潜伏時代に価値がある。構成資産の再考を」との指摘を受け、一度は申請を取り下げました。同時に問題となったのが世界文化遺産は象徴的な不動産が前提であるが、潜伏時代はともて精神的なものであり象徴する不動産は集落跡、墓地など残念ながら一見して「すごい！」と

は感じにくいという点があった。そこで改めて「弾圧・潜伏・復活」のストーリーで組み立て直し、教会群は潜伏していたキリシタン集落の証明

として登録に至ったと解説。また、様々な宗教が併存しながら信仰が守られてきた点もあわせて評価された



関連遺産群分布地図

キリシタンが「潜伏」するきっかけとなった原城跡、何を拝んで信仰を實踐していたのかを示す集落、どのような場所を選んだのかを示す集落、転機を迎えるきっかけとなった大浦天主堂、「潜伏」の終焉を示す江上天主堂の12の資産で構成されています。



第62回例会 長崎と天草地方の 潜伏キリシタン関連遺産

その歴史的背景と世界遺産としての価値

2月20日に長崎県長崎学アドバイザーの本馬貞夫先生を講師に市民公開講演会を長崎市立図書館多目的ホールで開催、会員・市民など58人が参加しました。





続けて日本にキリスト教が伝来してから禁教令が発布され始まった「弾圧・潜伏・復活」の歴史を時代ごとに解説し、あわせてその歴史を伝える史跡や史料の価値や、その保護活動に尽力した人々について紹介しました。そして観光のためだけでなく、信徒・地域住民の生活を優先しながら

しました。



ら世界遺産を守る、3年、5年先を見据えた保存管理計画が必須だと強調。現に構成資産を有する外海町は見学施設が整備され、今では人気の観光地となっている反面、人口はこの10年で1000人減少していることを紹介し、今後は観光地としての魅力をいかに地域振興に活かしていくかが行政の役目ではないかと訴えました。

参加者からは「大変熱く語っていただき感動しました」「世界遺産Ⅱ観光ではなく本当の価値を知ることが大切だと思えます」「講演を聞いてもつと掘り下げて色々知りました」などの感想が寄せられました。



第64回例会のお知らせ

神ノ島歴史散歩

長崎港の入口にある神の島は、神功皇后伝説が残る1000年の歴史がある「伝説の島」です。当日は池之神社、神の島教会などを訪ねながら小さな島に息づく歴史をひもときたいと思います。

講師 **山口広助**氏 (料亭青柳／まち歩きの人)

日時 10月30日(水)

集合時間 10:00 (解散14:00)

集合場所 小柵地域センター
(長崎県小瀬戸町1015-7、長崎バス「小瀬戸」停留所前)

昼食「ウイルス」(長崎サンセットマリーナ)
※歴史散歩終了後、送迎バスで昼食会場に向かいます。
解散後、長崎駅まで送迎バスがです。

参加費 会員、会員家族 2,500円 同伴者 3,000円

申込締切 10月17日(木)



お問い合わせは長崎県保険医協会まで TEL 095-825-3829